

『SNS カウンセリング・ケースブック』の出版記念イベントのご報告

2020年9月21日（月）、『SNS カウンセリング・ケースブック：事例で学ぶ支援の方法』（誠信書房）の出版記念のオンラインイベントがYouTubeにてライブ配信されました。

本書は、SNS カウンセリングに実際にどのような相談が寄せられ、どのような対話が展開し、どのように相談者の支援に役立つのかをまとめた事例集です。

パネリストとして参加されたのは、本書の監修者である杉原保史先生（京都大学学生総合支援センター教授・当協議会理事）を始め、著者の宮田智基先生（帝塚山学院大学大学院教授）、樋口隆弘先生（関西医科大学総合医療センター小児科心理士）、そして SNS カウンセリングの現場でご活躍されている高間量子先生（公益財団法人 関西カウンセリングセンター）です。

司会は、本書の著者のひとりである畑中千紘先生（京都大学 こころの未来研究センター特定講師）が務められました。



イベントは、杉原先生によるミニ・レクチャーからスタート。まずは、2017年にSNS カウンセリングが自治体の取り組みとして本格的に始まった流れが説明されました。また、コロナ禍での遠隔心理支援の急速な普及についても言及され、その中で「(今は) LINE を活用することで、どんな新しい効果的な遠隔心理支援が可能になるか、という問いに取り組む状況に来ている」としてレクチャーは締めくくられました。

続く、参加者全員によるディスカッションでは、SNS カウンセリングの現場に常日頃から立たれている先生方が、現場の感想や相談員として難しかったことについてコメント。またコロナ禍において寄せられた SNS 相談や、それにまつわる対応についてもお話されました。

その後、視聴者からチャットなどで寄せられた質問に、先生方が回答。SNS カウンセリングの勉強を始めるタイミングや、毎回違うカウンセラーが同一の相談者に対応することの難しさ、また、現場の主任相談員と相談員の関係の構築などについて、それぞれの所感を述べられました。

最後に今後の展開について、杉原先生より「(対面相談だけでなく、SNS 相談や Zoom 相談といった遠隔心理支援など) さまざまなカウンセリングのメリットを全部組み合わせれば、単体のカウンセリングのメリットよりも、ずっと大きなメリットがトータルで得られる。心理支援全体を捉えた上で、その中で SNS 相談のメリットを最大限発揮させるような形で、日々の臨床の中にも取り込んで、ハイブリッドな相談ができればいい」「全体としてトータルに効果がある相談をデザインしていくことが、これからの課題」というコメントで、イベントは終了。

80 分のオンラインイベントは、約 240 名の方々にご視聴いただきました。

ご関心をお寄せいただいているみなさま、また、関係者のみなさまにおかれましては、今後も更なるご関心をお寄せいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。